

# 第1学年算数科学習指導案

日 時 令和5年10月11日(水) 公開授業 I  
 児 童 1年2組  
 男子15名 女子15名 計30名  
 指導者 首藤 礼

## 1 単元名 たし算

## 2 単元の目標

1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

## 3 単元について

### (1) 教材について

児童はこれまで、10の合成・分解や加法が用いられる場合やその意味、和が10以下の1位数どうしの加法計算について学習した。また、2位数の構成を「10といくつ」と捉えることによって、 $10+5$ 、 $12+3$ など繰り上がりのない加法計算を学習している。

本単元では、既習の学習を基に「10といくつ」という数の見方に着目し、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、理解し、計算する力を育成していくことがねらいである。

### (2) 児童について

学級の児童は、進んで学習に取り組んでいる児童もいるが、学習に向かう態度、既習内容の定着は個人差がある。また、友達の考えを聞いて、自分の考えを広げるには至っていない。レディネステストの結果は以下の通りである。

問題のねらい	正答率
・繰り上がりのない加法計算ができるか。	92%
・10までの数の合成・分解ができるか。	80%
・加法の文章問題ができるか。	85%

繰り上がりのない加法計算はできるが、数の合成・分解に間違いが多く見られた。既習内容の復習を行ったり、学習課題に取り組む際には、見通しを丁寧にもたせたりしながら、本単元の学習を進めていく必要がある。

### (3) 指導について

本単元では、以下の点に留意して指導にあたっていきたい。

#### ○ ブロック操作とさくらんぼ計算(図)と言葉、式を関連付ける

本単元では、「10のまとまり」をつくり、「10といくつ」の考え方をすることが大切である。ブロック操作を通して計算の仕組みが理解できたことを生かし、図を用いて、計算の仕方を説明していく活動を位置付けていく。ブロック操作や図に表しながら、「10といくつ」をつくり、答えを求めるまでの過程を説明する場を適宜設け、知識を伴った表現力を高めていきたい。

## 4 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①合併や増加など、加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ②1位数と1位数との加法の計算が確実にできる。	①ある場面が加法を用いることができるかどうかを、数量の関係に着目して、具体物や図などを用いて考えている。 ②日常生活の問題を加法を活用して解決している。 ③和が10より大きい数になる加法について、「10とあといくつ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。	① 加法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②加法の場面を身の回りから見付け、加法を用いようとしている。 ③学習したことをもとに、和が10より大きい数になる加法の計算の仕方を考えようとしている。

5 指導と評価計画（全 10 時間）

時間	ねらい（学習内容）	評価規準（評価方法）		
		知・技	思・判・表	主体的態度
1	「10 といくつ」という数の見方に着目し、 $9 + 4$ の計算の仕方（加数分解）を考える。	・知① 観察 ノート	・思①② ブロック ☒ 観察	・態①② ブロック ☒ 観察
2	被加数が 9 の場合の計算の仕方（加数分解）			
3	「10 といくつ」という数の見方に着目し、被加数が 8 や 7 の場合の計算の仕方（加数分解）を考える。		・思③ ブロック ☒ 観察	
4	被加数が 9 ～ 6 の場合の加法の計算練習，文章題	○知① 観察 ノート		
5 本時	「10 といくつ」という数の見方に着目し、 $3 + 9$ の計算の仕方（被加数分解）を考える。		○思① ブロック ☒ 観察	・態③ ブロック ☒ 観察
6	1 位数どうしの繰り上がりのある加法の計算練習，文章題	○知① 観察 ノート		
7 8 9	計算カードを使った，1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算の練習	○知② 観察 ノート		
10	学習内容の習熟・定着（たしかめよう）	○知①②	○思③	○態③ ノート

6 本時について

(1) 目標

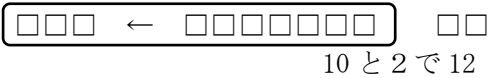
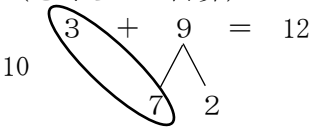
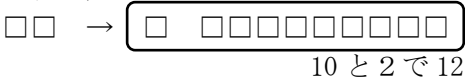
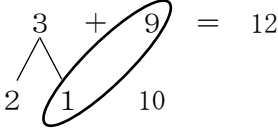
- ・「10 とあといくつ」に着目し，ブロック操作や☒を用いて考える活動を通して，計算の仕方を説明している。  
(思考・判断・表現)
- ・既習の加法計算や数の構成を基に，繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。  
(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 研究に関わって

「他者との対話」考えを広げる・深める

既習と本時の学習の考え方を比べ，共通点や相違点を話し合うことで，どちらの考え方でも 10 とあといくつに着目することで計算ができることを気付かせていく。

(3) 展開 (5時間目/10時間)

段階	学習活動 ・主な発問 (T)・予想される児童の反応 (C)	・指導上の留意点 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">◇研究</span>
つかむ 3分	<p>1 問題場面をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">たまごはあわせてなんこですか。</div> <p>T: どんな式になりますか。 C: <math>3 + 9</math> T: 今までの問題と、どんなところが違いますか。 C: 後ろの数の方が大きくなっている。</p> <p>2 本時の課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">どんなけいさんになるかな。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法の場面であること、式や答えが10より大きくなりそうなことを確認する。</li> <li>・既習の加法の計算との違いについて考えさせることによって、被加数が小さい問題だということに気付かせ、課題につなげる。</li> </ul>
考える	<p>3 見通す</p> <p>T: 計算しやすくするために何のまとまりで考えましたか。 C: 10のまとまり</p> <p>4 やってみる</p> <p>T: ブロックや図を使って、<math>3 + 9</math>の答えを見つけましょう。 C: ①加数分解の考え方 (ブロック)</p> <div style="margin: 5px 0;">  <p style="text-align: center;">10と2で12</p> </div> <p>(さくらんぼ計算)</p> <div style="margin: 5px 0;">  </div> <p>C: ②被加数分解の考え方 (ブロック)</p> <div style="margin: 5px 0;">  <p style="text-align: center;">10と2で12</p> </div> <p>(さくらんぼ計算)</p> <div style="margin: 5px 0;">  </div> <p>5 くらべる</p> <p>T: 考え方を発表してください。(①→②で発表) T: 二つの考え方で同じところはどこですか。 C: 答えが同じ。10のまとまりをつくっている。</p> <p>T: 違うところはどこですか。 C: 分けるところが前と後ろで違う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早く終わった児童は、ブロック、さくらんぼ計算のどちらの方法でも確かめさせる。言葉で説明を書ける児童には書くように促す。</li> <li>・自力解決が難しい児童には、ブロックケースを使って、10のまとまりを視覚的に捉えられるようにしたり、「3は□をたして10。10と△で○。」などのヒントカードを渡したりする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇「他者との対話」 考えを広げる・深める</p> <p>既習(加数分解)と本時の学習(被加数分解)の考え方を比べ、共通点や相違点を話し合うことで、どちらの考え方も「10とあといくつ」「10のまとまり」に着目することで計算ができることに気付かせたい。適用問題では学習を生かして、2つの考え方から選択して計算できるようにしたい。</p> </div>

34分	<p>T：前の時間と違う計算の仕方を説明しましょう。 C：9はあと1で10。3を2と1にわけると9+1で10ができる。10と2で答えは12。</p> <p>T：どちらの計算がしやすいですか。 C：3を分けて9に1をたす方が10をつくりやすい。</p> <p>6 適用問題 T：6+7の計算をしましょう。</p>	<p>・新しい計算方法を全体で確かめ合いながら、10のまとまりが作りやすいことに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【思考・判断・表現】</b> 「10とあといくつ」に着目し、ブロック操作や図を用いて考える活動を通して、計算の仕方を説明している。 (観察・ブロック・ノート・発表)</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 既習の加法計算や数の構成を基に、繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。 (観察・ブロック・ノート・発表)</p> </div>
3分 まとめる	<p>7 まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">10のまとまりをつくって、けいさんする。</div>	<p>・板書で本時の学習を振り返りながら、児童の発言をもとにまとめていく。</p>
振り返る 5分	<p>8 本時を振り返る（期待される振り返りの言葉） C：10のまとまりをつくと簡単に計算できることがわかった。 C：はじめは9を分ける方が簡単だと思ったけど、〇〇さんの考えの3を分けた方が10をつくりやすい。 C：友達の発表をよく聞いたり、自分で考えたりすることをがんばりました。</p>	<p>・学習を通してわかったこと、友だちの学びのよさ等を発表させる。 ・発表した内容を価値づけるとともに、発表しようとしている姿や発表を聞こうとしている姿を認めていく。</p>

(4) 板書計画

㊟ たまごはあわせてなんこですか。

絵 図

しき  $3 + 9$

うしろのかずがおおきい  
10のまとまりをつくる

㊦ どんなけいさんになるかな。

わけかたが  
ちがう

9をわけた 3をわけた

(ブロック)  $10$   $10$

(さくらんぼ計算)

$$\begin{array}{r} 3 + 9 = 12 \\ 10 \quad \swarrow \searrow \\ \quad 7 \quad 2 \end{array}$$

こたえ 12こ

(さくらんぼ計算)

$$\begin{array}{r} 3 + 9 = 12 \\ \quad \swarrow \searrow \\ 2 \quad 1 \end{array}$$

こたえ 12こ

こたえは  
おなじ

㊧ 10のまとまりをつくってけいさんする。